

所居便名安房郡今安房國是也

〔續修東大寺正倉院文書後集六〕錢用帳 天平寶字六年

同日閏十二日 下錢壹佰肆拾陸貫壹伯拾玖文略中 一百文買麻大五斤斤別廿文

〔續日本紀二十七〕天平神護二年六月丁亥日向大隅薩摩三國大風桑麻損盡詔勿收柵戶調庸

〔萬葉集七〕雜歌 羈旅作

夏麻引海上瀨乃奧津洲爾鳥者簀竹跡君者音文不爲

〔萬葉集十一〕古今相聞往來歌 寄物陳思

櫻麻乃苧原之下草露有者令明而射去母者雖知

〔袖中抄十一〕さくらあさ

さくらあさのおふの下草はやくおひばいもが下ひもとかざらましを

顯昭云、さくらあさとは、麻の花は、まろき中にすこしうすすはう色あるあさのある也、それを

櫻麻とは云也、又下人の申侍しは、くらあさといふ物なりと申き、くらあさとは、もじ苦參くらあさと

云物にや、それもぬのにをれば、それをもあさといふ歟、それに文字さもじをくはへて、さくらあさ

といふにや、櫻麻とかきたる所心えねど、万葉は書様ともかくもあり、石の根をも石金カネとかけ

り、當時よみよきやうに書也、さくらあさのおふと云をも、或は櫻麻の麻原とかけり、これは麻

の義にかなへり、或櫻麻の苧原ともかけり、これはいはれず、麻と苧と別の物なる故也、苧をば

まをといひ、からうしともいふ也、

〔散木弁壽集春一〕なしの花さかりなりけるをみてよめる

櫻あさのおふのうらなみ立かへり見れどもあかぬ山なしのはな

〔太平記二〕長崎新左衛門尉意見事附阿新殿事